

## 編集後記

令和2年のRISTNEWSをお届けします。  
今年、Covid-19が地球を覆い社会環境を大きく変えた年です。日本では、『コロナ禍』と言われています。この禍は、「禍(わざわい)」とも読む漢字ですが、同じ読み方を持つ「災(わざわい)」と、意味の上で使い分けがされています。「災(わざわい)」は、「天災」など、主に「防ぎようのない元凶によりもたらされるもの」に使われ、「禍(わざわい)」は、「舌禍」など、主に「人為的ミスなどにより発生した凶事」に使われるようです。新型コロナウイルスに由来する凶事に「禍」の字があてられるのは、「これ以上感染を広げない」という重要な点が、個々人の行動にかかっているという戒めの思いがあるのでしょうか。

今回のRISTNEWSは、そんな私たちを取り巻く環境の中で情報科学技術の最新な研究や調査に関する情報を先生方に寄稿していただきました。

巻頭言を当財団に新たに就任された田島理事長にいただきました。記事には、原子力機構の数納様から『菌類(キノコ)の放射性セシウム濃縮機構解明に向けた分子シミュレーション技術の研究開発』と題する研究で福島第一原子力発電所事故のセシウム濃縮機構解明に向けた分子シミュレーション技術の開発について書いていただき

ました。当財団から山中様には『アクア・イノベーション拠点(COI)ー信州大学における大規模シミュレーションを用いたナノ炭素複合水処理膜の耐ファウリング特性に関する研究の紹介』と題する研究で、命の源である安全な飲料水を確保するための高性能水処理膜の特性の把握とその機能向上についての取り組みを書いていただきました。また、木村様には『HPCI利用研究成果論文のデータ分析』と題す調査・解析で、大規模シミュレーションを行うのになくはないスーパーコンピュータ「京」により創出された成果論文の調査・分析に関して書いていただきました。

ご存じのように「京」は、2011年6月・11月に国際スーパーコンピュータ会議にて発表されたTOP500において1位となり、2019年8月に数々の功績を残し共用を終了しました。その後継機「富岳」が、2020年6月23日に発表されたTOP500において1位となりました。既に「富岳」を活用したシミュレーションは開始しており、新型コロナウイルス感染症の克服に向けた研究成果も発表されていて、頼もしい限りです。

今回の発行にご協力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

今後ともRISTNEWSをご高覧いただきたくお願い申し上げます。(中村)